

笑顔☆かがやく

芦屋市立山手小学校長 井岡 祥一

小善と大善

毎回のよう、「相手のことを考える」をテーマにしているように学校だよりを書いています。また、山手小学校の教職員や児童にも「相手のことを考える」ことを伝えていきます。今回は、そのことをさらに深くとらえることに触れたいと思います。

「小善は大悪に似たり。大善は非常に似たり。」という言葉があります。これは、仏教用語だとされています。武田信玄もこの言葉を口にしたという逸話もあるそうです。では、この「小善と大善」に関するいくつかあるエピソードのうち、一つを紹介しましょう。

【中江藤樹の母親の哲学】

中江藤樹は、日本における陽明学の始祖といわれている人物です。彼の母親のエピソードにも「小善は大悪に似たり。大善は非常に似たり。」が現れています。

中江藤樹は九歳の時に祖父の養子となり、伊予の大洲で暮らしていました。冬のある日、母があかぎれやしもやけに苦しんでいるという話を聞きます。自分のいる大洲の温暖な気候に比べ、母の住む緒川村の寒さを思うといてもたってもいられず、薬を買って母の住む村に向かいます。

故郷の村に着くと、母が雪の中、重い釣瓶で井戸の水を汲んでいるのが見えました。駆け寄る藤樹を見た母は、「男子が一度目標を持って家を出たならば、めったなことで帰ってきてはなりません。私のことは心配せず、大洲に帰りなさい。」と諭し、薬も受け取らず、家にも入れず、藤樹を追い返したとされています。母は、藤樹が肩を落として帰っていく後ろ姿を、涙を流しながら見送りました。その後、母の深い思いを知った中江藤樹は勉学に励みます。

母親はせっかく戻ってきた息子に対して、一見、非情と思える対応を取ります。しかしそれは、息子に対する大きな愛情（大善）だったのです。

「小善」とは、優しさからされる行いかもしれませんが、「相手のことを考える」と目先の優しさで、後々、相手にとって、良くないことになってしまいます。そのため、「大悪」とも言われています。藤樹の母も「小善」で対応すれば、藤樹の思いを受け入れたと思います。しかし、藤樹の将来を考え、受け入れませんでした。

「大善」は、一見、ひどいなと思われ、優しさを感じられない「非情」のように見えますが、相手の将来のこと（先のこと）を考えると、とても大切なことだと思います。

「相手のことを考える」は、本当に難しく、深いものだと思います。しかし、将来を担う子どもたちのために今一度、「小善と大善」を意識して、取り組んでいきたいと思っています。

最後に、人に教えるときの4つのレベルに触れて終わりたいと思います。

レベル1. セオリーを教える。

(こうしたらこうなる、というようなものごとの理論を教える。)

レベル2. ハウツーを教える。

(〇〇のやり方、という感じで、理論を実世界で役立てる方法を教える。)

レベル3. ゴールに導くことで、人生を変えさせる。

(その人が立てた目標に到達するための方法を教える。)

レベル4. 人生を超越させる。

(その人が思っている“自分の限界”を超えて、成長させる。)

子どもたちに教えるときに、私たち教職員も含めて、大人たちが、レベル4を目指してレベルを上げたいものですね。

◆12月行事予定

2日(月) 全校朝会、平和週間(～9日)、3年社会見学(要お弁当)

3日(火) 委員会

9日(月) 平和集会、個人懇談(9～13日)、児童会役員選挙活動(9～16日)

13日(火) ペア活動

16日(月) 6年社会見学(要お弁当)

17日(火) 児童会役員選挙

18日(水) 児童会行事前日準備

19日(木) 児童会行事、給食最終日(1～5年)

20日(金) セレクト給食(6年のみ)

23日(月) 児童集会、校外児童会

24日(火) 大掃除

25日(水) 終業式

<1月の予定>

始業式(7日) 給食開始(9日) 1.17集会(17日)

オープンスクール(30～31日) 展覧会(31日～2月1日)

※ヨドコウ迎賓館での展示は、2月1日～2日です。



◆校外児童会について

23日(月)の校外児童会は、各分会で話し合った後、分会下校を行います。集団下校の練習も兼ねていますので、この日は、学校に残ることなく登校班で下校します。そのため、キッズスクエアは実施していません。※学童保育(わんぱく)はあります。

日頃から登下校についていろいろとご配慮いただき感謝しています。これからも、児童への注意喚起・見守り等、引き続きよろしくお願ひします。

◆個人懇談会中の下校について

懇談期間中は、全校13時半下校です。キッズスクエア・学童保育は実施していません。それ以外については、学校では居残りができません。ご了承願ひします。